

2014年度教員評価の結果について

副学長 福島一政

本学で本格的な教員評価が導入されたのは、2011年のことである。2008年から足掛け2カ年の試行期間を経ての試みだった。しかし、2011年度の教員評価については、客観性や全学基準の設定、教育力の向上につながる評価制度かどうか、という点など、多くの課題を残した。

そこで、改めてこれら課題の解決を目指して制度のリニューアルが行われ、2014年度に新制度にて実施することとなった。2014年度は2013年度の教員の諸活動の評価を行った。

評価の目的、制度の仕組み、評価の視点、評価基準と評価のウェイト等は別紙のとおりである。

個々の教員評価をすることにもなるので、新制度の設計には十分な時間をかけて慎重に検討を重ねてきたが、実際に適用してみると、活動の実態が適正に評価されない部分もでてきた。そのため、領域ごとの評価換算基準値を易化するなどの修正を行った。翌年度の実施に向けては、何点かの評価項目の見直しも行った。

このように、2013年度の活動実績について正確な評価をするには必ずしも十分とはいえないが、おおよその傾向は見て取ることができると考えて、評価結果の概要を公表することとした。次年度以降、評価項目の改善を進め、一層適正な評価ができるようにしていくこととしたい。

評価結果の概要は、グラフで以下に示したとおりであるが、若干のコメントをしておきたい。

まず、教授、准教授、講師別の総合評価についてである。全体として、「特に優れている」と評価される教員が准教授の1名のみだったのは、全学に活気をもたらすという点では不十分な状態だと考えざるを得ない。一方で「改善を要する」と評価される教員が、24.8%というのも、評価途上での学部長と個々の教員との面談等で克服していく必要がある。「優れている」が12%、「可」が62.4%となっているが、これらの比率が、もうワンランク上の比率になるよう、全学的な取り組みを強めることが求められると考える。

次に、教育、研究、社会貢献、大学運営の領域別評価についてである。この4領域の中で、特に改善が求められるのは、社会貢献領域であろう。「改善を要する」が43.2%に達しているからである。なぜこのような結果になっているのか原因を明らかにして、大学としての支援策も考える必要があるだろう。

以上であるが、次年度以降、この結果を踏まえて、大学としての教員支援策を検討するとともに、教員の一層の努力に期待したい。

2014年度教員評価の結果について

2015年9月
追手門学院大学

1. 教員評価の目的

教員の教育・研究活動状況について、自己点検を踏まえ、客観的に評価し、教員の意識改革を促すとともに、教育改善を促進させる。さらに教育・研究業績などの状況と評価結果概要を公表することにより、社会に対する説明責任を果たすことを目的とする。

2. 評価制度の仕組み

[1] 評価制度概要

① 評価の構成：領域別評価および総合評価

[2] 評価の対象

① 教員評価の対象とする教員は、追手門学院大学就業規則第1条第2項に定める専任の教員のうち、副学長、学部長および基盤教育機構長を除く教授、准教授及び講師とする。ただし、任用期限付専任教員（任期制教員A）および任用期限付専任教員（任期制教員B）も対象とする。

② 評価対象年度または評価実施年度に、長期出張（研修含む）、育児休業等の特別な事情がある場合は、当該期間について評価の対象から除外する。

[3] 評価者

① 一次評価者：副学長（総務領域担当）、学部長、基盤教育機構長（以下、「学部長等」）

② 二次評価者：学長（全学教員評価委員会の議を経て行う）

[4] 評価対象期間

① 教育活動 前年度1年間（4月1日から翌年3月31日まで）

② 研究活動 過去3年間（年度単位）

③ 社会貢献活動 前年度1年間

④ 大学運営活動 前年度1年間

[5] 評価手順

① 被評価者（以下「教員」）による評価書類の作成（年度の教育活動目標設定、領域ごとの業績についての評価申告）

② 学部長等による面談の実施

③ 学部長等による一次評価

④ 学長による評価（二次評価）

⑤ 教員への評価結果通知

⑥ 教員からの結果に対する意見の申し出

⑦ 教員からの意見申し出に対する所見

⑧ 教員評価最終結果報告（全学教員評価委員会、大学教育研究評議会）

⑨ 教育活動目標の達成状況等の自己評価

3. 評価基準

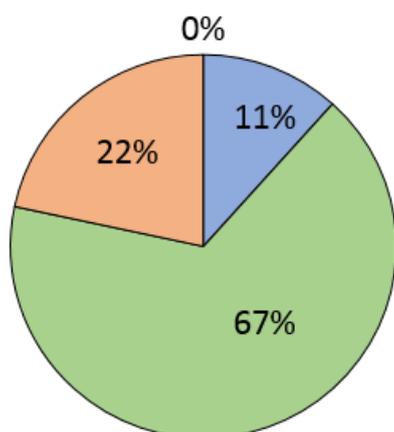
領域 (評価対象期間)	評価の視点	評価基準		帳票	評価ウエイト	
		領域別評価	総合評価			
教育活動 (前年度1年間)	○教育に関する目標の達成状況に加えて、その過程と成果を評価	3 水準を上回った、目標を上回った	4 特に優れている 3 優れている	教員評価票 1	教授 40% 准教授 35% 講師 35%	自己裁量領域 10% ※教育活動 研究活動 社会貢献活動 大学運営活動 のうち1つに加算
	○自らの担当する授業科目の規模、教育効果の向上や教授法習得など積極的な取り組みへの評価 ○学生による授業アンケートの評価 ○学生指導、支援活動に関する具体的な取り組みを評価			2 水準を満たしている、目標に達した		
研究活動 (過去3年間)	○著書・論文の執筆や研究発表状況 ○外部資金獲得や受賞の状況	1 水準に達していない、目標に満たない		教員評価票 2	教授 25% 准教授 35% 講師 35%	
社会貢献活動 (前年度1年間)	○地域や産業との連携・協力や教育研究の普及・啓発などの取り組み			教員評価票 2	教授 10% 准教授 10% 講師 10%	
大学運営活動 (前年度1年間)	○部局長等の実績や入試関連業務において積極的に役割を果たしているか。 ○学内行事に積極的に出席しているか			教員評価票 2	教授 15% 准教授 10% 講師 10%	

4. 評価結果

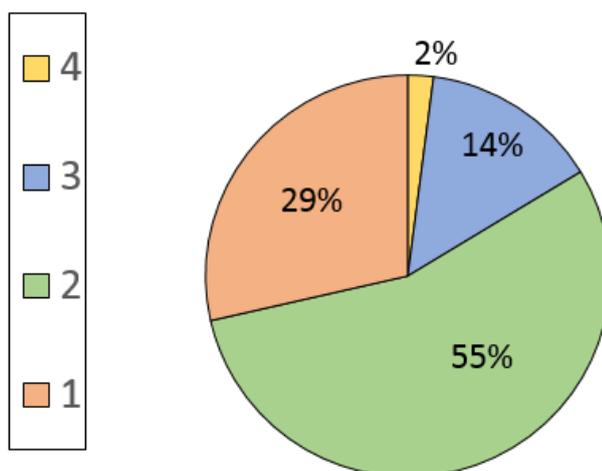
〔1〕 総合評価（職位別）

二次評価	教授				准教授				講師				合計(人数)
総合評価値	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	
合計(人数)	0	7	40	13	1	7	27	14	0	1	11	4	125

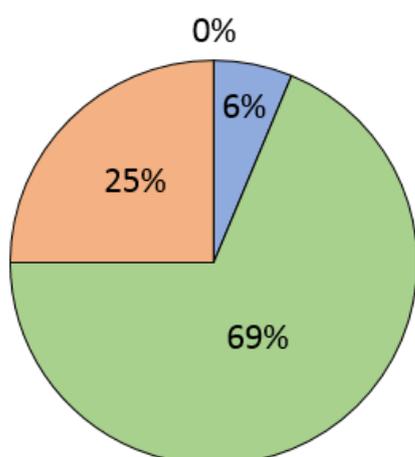
(教授)



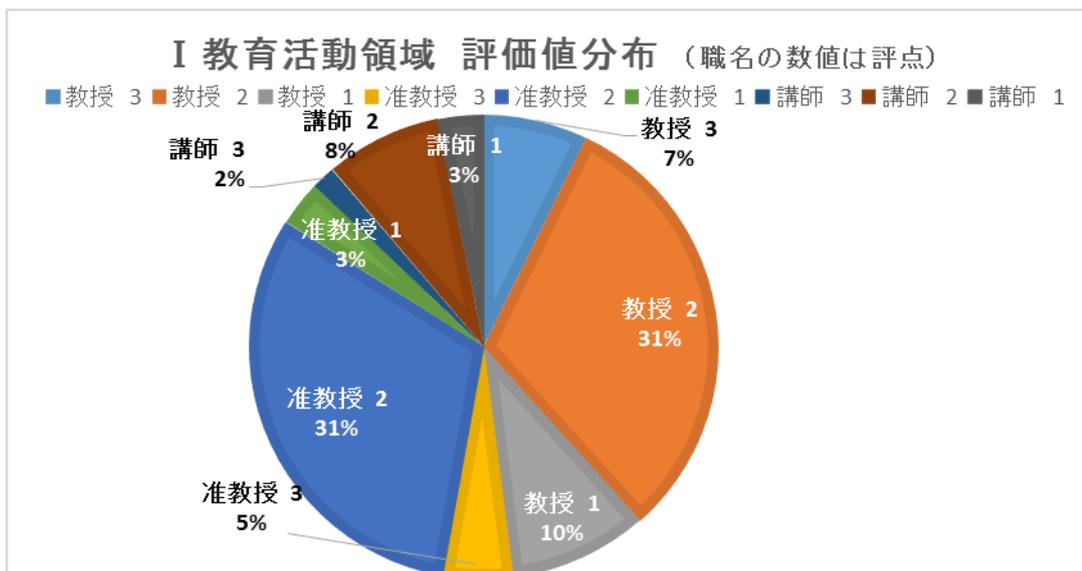
(准教授)



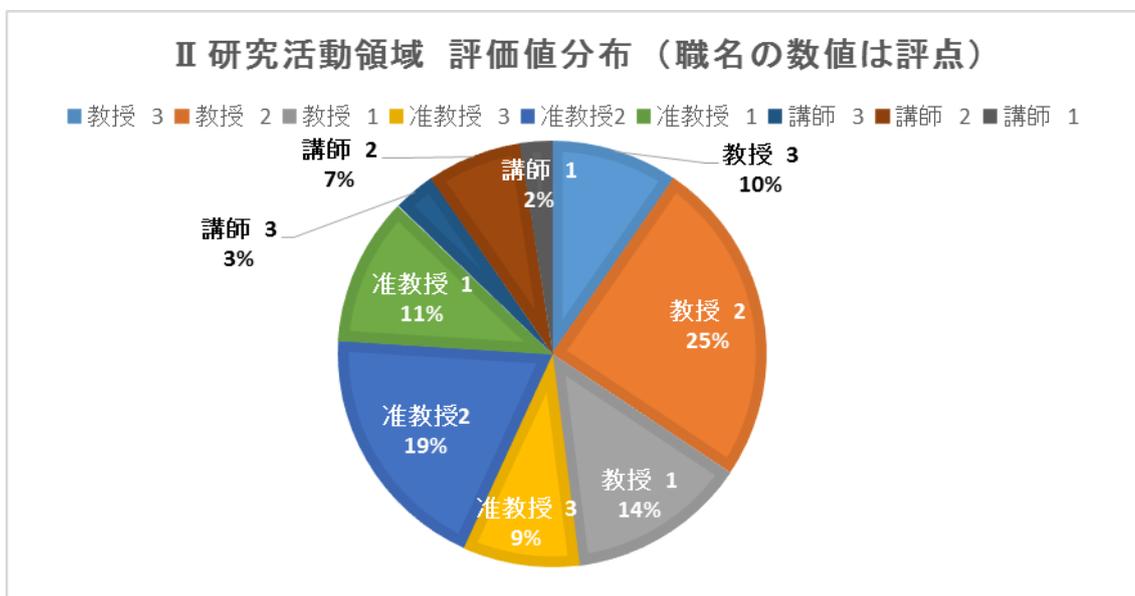
(講師)



〔2〕 領域別評価

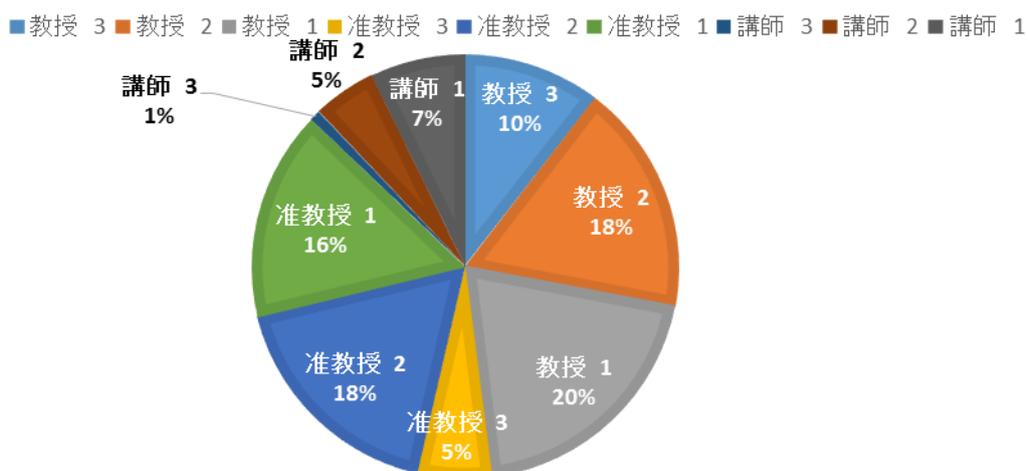


I 教育	評価値	経済	経営	心理	社会	国際	基盤/その他	合計
教授	3		5	3		1		9
	2	9	8	3	8	8	3	39
	1	2	2	2	2	1	3	12
准教授	3		2	3		1		6
	2	9	11	3	7	7	2	39
	1	2				1	1	4
講師	3			1			1	2
	2	2	3	1	2	2		10
	1		1	2		1		4
合計		24	32	18	19	22	10	125



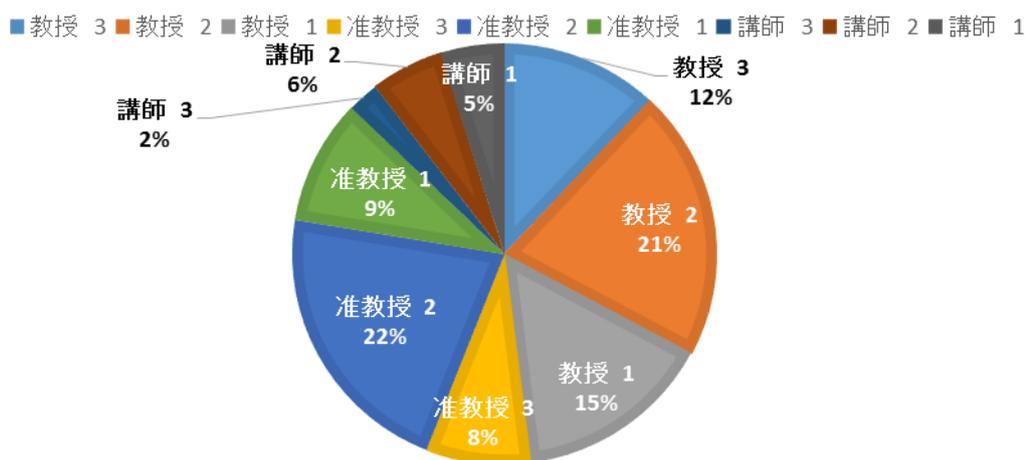
II 研究	評価値	経済	経営	心理	社会	国際	基盤/その他	合計
教授	3			2	6	2	2	12
	2	5	11	6	1	7	1	31
	1	6	4		3	1	3	17
准教授	3	2	4	1	2	2		11
	2	5	6	4	1	7	1	24
	1	4	3	1	4		2	14
講師	3	1		2		1		4
	2	1	3	1	1	2	1	9
	1		1	1	1			3
合計		24	32	18	19	22	10	125

Ⅲ 社会貢献活動領域 評価値分布（職名の数値は評点）



Ⅲ 社会貢献	評価値	経済	経営	心理	社会	国際	基盤/その他	合計
教授	3	1	2	4	5	1		13
	2	4	4	4	4	2	4	22
	1	6	9		1	7	2	25
准教授	3	1	2	2	2			7
	2	5	6	3	1	4	3	22
	1	5	5	1	4	5		20
講師	3	1						1
	2			4	1	1		6
	1	1	4		1	2	1	9
合計		24	32	18	19	22	10	125

Ⅳ 大学運営活動領域 評価値分布（職名の数値は評点）



Ⅳ 大学運営	評価値	経済	経営	心理	社会	国際	基盤/その他	合計
教授	3	1	3	2	6	1	2	15
	2	7	5	6	2	5	1	26
	1	3	7		2	4	3	19
准教授	3		4	4	1	1		10
	2	6	8	2	5	5	1	27
	1	5	1		1	3	2	12
講師	3	1		2				3
	2	1	2	2	1	1		7
	1		2		1	2	1	6
合計		24	32	18	19	22	10	125